小学校　第４学年　（学級活動）学習指導案　例

１　題材名　さい害直後のこんなんな生活を乗りこえる

　　　使用教材：『明日に生きる』（小学校高学年用）p.６、７

　　　準備物：掲示物（工夫例、役に立ったグッズ、キーワード、災害の写真等）

　　　　　　　ワークシート

２　本時について

（１）ねらい

　　災害時にライフラインが途絶えた状況下での生活について考えることで、日頃から災害に備えようとする実践的な態度を育てる。

（２）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 子どもの活動 | 教師の支援 | 備考 |
| １　近年起こった災害を振り返るとともに、話し合いを通して災害時の生活ではどのようなことに困るかについて考える。・水　　・ガス　・電気・交通　・情報・食事　・病気、衛生　災害時の工夫や災害に備えて家庭で用意しておくものを考えよう。２　ライフラインが途絶えた生活で具体的にどのようなことができそうかについて考える。○災害時にできる工夫について個人で考える。○災害時にできる工夫について班で話し合う。○班の意見を全体で発表する。３　普段から準備すべきだと考えたものを「我が家の備えリスト」として書いてまとめる。４　「大地震へのそなえ」のグラフを見て、学習のまとめをする。 | ・「大阪府北部地震」「西日本豪雨」「北海道胆振東部地震」の様子や復旧までの日数が分かる資料を用意し、ライフラインが途絶えた状況や困り感を考えることができるようにする。・キーワード（ライフライン）に注目させて、本時の活動につなげられるようにする。・役に立ったグッズベスト20の主な物をクイズ形式で提示し、意欲的に取り組めるようにする。・４つの工夫を提示し、自分で考えやすいようにする。・具体的な例を提示することで、日用品にひと工夫したり、少し増やしたりすることが災害への備えになることを考えられるようにする。・工夫の良し悪しを問うものではないことを確認し、自信を持って取り組めるようにする。・友だちの考えに触れることで、考えの幅を広げられるようにするとともに自分の考えに自信を持てるようにする。・本時の学習を振り返ることで、自分の家に備えておく物をまとめ、自分が必要だと考えたものを表現できるようにする。・「大地震へのそなえ」を提示し、災害への備えをしようとする意識が時間とともに薄れていくことに着目できるようにする。 | 写真『明日に生きる』 |